

大会名 Competition	第45回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会男子決勝
NO. M-2	Year Month Day Time 2014 年 10 月 31 日 14 : 00
場所 Place	秋田市立体育館



秋田県高等学校体育連盟  
バスケットボール専門部

チームA		チームB										
能代工	<table border="1"> <tr><td>24 1st</td><td>26</td></tr> <tr><td>25 2nd</td><td>14</td></tr> <tr><td>30 3rd</td><td>21</td></tr> <tr><td>34 4th</td><td>27</td></tr> <tr><td colspan="2">OT</td></tr> </table>	24 1st	26	25 2nd	14	30 3rd	21	34 4th	27	OT		平成
24 1st	26											
25 2nd	14											
30 3rd	21											
34 4th	27											
OT												
113 ○		88 ●										

主審:Referee 谷地 温 (秋田)  
副審:1stUmpire 佐藤 匠 (秋田)  
副審:2ndUmpire 佐々木一也 0  
テーブルオフィシャル:Table officials  
秋田高男子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	長谷川 暢	CAP	31	4	8	3	4	4	×	伊藤 秀太	CAP	11	1	4	0	2
5	/	荒木 直		18	0	7	4	5	5	/	金子 湧聖		0	0	0	0	1
6	×	中村 碧杜		11	0	5	1	4	6	×	大山 将斗		9	0	3	3	4
7	/	渡邊 竜也		3	1	0	0	0	7	×	畑澤 大地		34	5	6	7	2
8	×	幸崎 竜馬		12	4	0	0	1	8	×	鈴木 尚輝		15	4	1	1	2
9	×	小室 望海		12	2	3	0	1	9	/	佐藤 恭平		13	2	3	1	3
10	×	斉藤 大輔		23	0	9	5	0	10	/	栗田 将弥		6	0	3	0	4
11	/	金久保 翔		0	0	0	0	1	11		壽松木 敬正		-	-	-	-	-
12	/	猪狩 涉		0	0	0	0	0	12		柿崎 真牙		-	-	-	-	-
13		藤原 健人		-	-	-	-	-	13		横山 空		-	-	-	-	-
14	/	盛賞 海翔		0	0	0	0	0	14	×	藤原 貴史		0	0	0	0	0
15	/	長谷川 翔		3	1	0	0	0	15		大日向 裕也		-	-	-	-	-
16		大高 祐哉		-	-	-	-	-	16		内藤 達也		-	-	-	-	-
17		長濱 宏治郎		-	-	-	-	-	17		鍵野目 颯斗		-	-	-	-	-
18		柴田 一真		-	-	-	-	-	18		三浦 杏太		-	-	-	-	-
19		植村 太一		-	-	-	-	-	19		遠藤 翼		-	-	-	-	-
20		藤谷 洋人		-	-	-	-	-	20		石井 淳大		-	-	-	-	-
21		熊谷 弥高		-	-	-	-	-	21		石井 秀樹		-	-	-	-	-
コーチ		佐藤 信長							コーチ		佐々木 信吾						
Aコーチ		栄田 直宏							Aコーチ		鈴木 絢平						
合計				113	12	32	13	16	合計				88	12	20	12	18

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は、45年連続45回目の優勝を狙う能代工と、初優勝を目指す平成の対戦となった。両チームともマンツーマンディフェンスでの立ち上がりとなった。能代工は#10斉藤のジャンプシュート、平成は#7畑澤の1対1を中心にオフェンスを展開し、開始5分はほぼ互角の展開となる。どちらも確率の高いミドルシュートを沈める一進一退の攻防が続くが、平成は終盤に#9佐藤が連続してシュートを決めて4点リードする。能代工も最後に#6中村のダンクシュートが決まり、24-26と平成のリードで第一ピリオドを終える。

第二ピリオド、能代工は平成のディフェンスを崩せず2分間ノーゴールと苦しい展開。一方の平成は#7畑澤や#9佐藤のジャンプシュートで得点を重ね、24-31と平成が7点リードしたところで能代工はたまたまタイムアウト。ディフェンスをゾーンに切り替えた能代工はスピードを生かした展開に持ち込み、#5荒木の合わせのプレーや#4長谷川暢の3Pで逆転に成功する。平成は外角のシュートがなかなか決まらず苦しむが、オフェンスリバウンドを粘り強く得点に結び付けて盛り返し、49-40と能代工のリードで前半が終了した。

第三ピリオド、能代工が#4長谷川暢のジャンプシュートで先制すると、平成はオフェンスリバウンドから#8鈴木が3Pを沈め、一歩も譲らない。平成が積極的な3Pで点差を詰めると、能代工は#4長谷川暢からの合わせで#6中村がバスケットカウント、さらにジャンプシュートを決める。ピリオド終盤に平成の得点が止まると、逆に能代工が#5荒木がゴール下の強さを見せて得点を重ね、79-61と能代工がリードを広げてピリオドを終えた。

最終ピリオド、なんとか差を縮めたい平成だが、能代工が#5荒木の速攻と#4長谷川暢がスティールから3Pを決めて90-65と突き放したところで平成はタイムアウト。その後も能代工は#9小室の3Pや#5荒木のピックアップアンドロールで得点して差を広げる。能代工は残り2分で出場した#7渡邊、#15長谷川が連続で3Pを決めて会場を盛り上げる。最後に平成も#7畑澤が3Pで意地を見せるが、外角のシュートとゴール下で強さを見せた能代工が113-88で45年連続45回目の優勝を決めた。

文責 【 打矢 泰之 】

# 得点推移

